

聴覚特別支援学校における聴覚過敏についてのアンケート調査

にしむら耳鼻咽喉科クリニック

西村 将人

大阪府医師会

佐野 光仁	愛場 庸雅	大平 真司
武市 直範	川崎 良明	菊守 寛
高島 凱夫	玉城 晶子	遠山 祐司
松原 謙二	武本 優次	田中 英高
益田 元子	伯井 俊明	浅井 英世

<目 的>

聴覚過敏は、ある特定の音が健常者より大きく聞こえてしまうために日常生活の妨げになるような症状であり、学校生活を行う上で大きな支障の一つと考えられる。今回、大阪府にある聴覚特別支援学校で聴覚過敏についてのアンケート調査を実施する機会を得たので報告する。

<対象・方法>

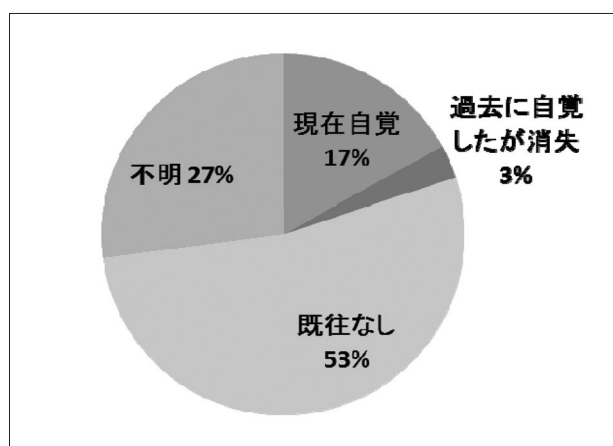
対象は、大阪市立聴覚特別支援学校の小学部～高等部の計130名で、アンケート方法としては、中川ら¹⁾が神奈川県 of 知的障がい特別支援学校で用いたのと同様に、Anderssonら²⁾がイギリスやスウェーデンで用いた質問用紙を和訳、抽出したものとし、保護者に自由回答の形で配布・回収した。質問紙に記載した保護者への聴覚過敏の説明は「普通の人よりも、ある特定の音が大きく聞こえてしまうために、日常生活のさまたげになるような症状」とした。

<結 果>

回収率は30例（23％）であった。罹患率は、「聴覚過敏を現在自覚する」が5例（17％）、「過去に自覚していたが現在消失している」が1例（3％）、「聴覚過敏の既往がない」が16例（53％）、「不明」が8例（27％）であった（図1）。聴覚過敏の既往があった6例が使用していた補聴デバイスは、5例が補聴器で1例が人工内耳であった。発症時期の回答があったのは3例で、6歳が1例、小学部低学年頃が1例、小学部4年が1例であった。発症状況で回答があったのは2例で、「急激な発症」が1例、

「徐々に発症してきた」が1例であった。進行状況に関して回答があったのは、「寛解増悪を繰り返す」が1例、「不変」が3例、「訴えなくなった」が1例であった。聴覚過敏を訴える音の種類としては、サイレン、笛の音、叫び声、エレベーターなどの警告音、工事現場の音などが挙げられ、これらは中川ら¹⁾が報告した音とほぼ同じものであった。対処法としては、補聴器装用児で自身が補聴器のスイッチを切って対応しているとの回答が1例あった。広汎性発達障がいの合併に関しては、専門医療機関にて自閉傾向またはグレーゾーンと診断されている症例が1例あったが、聴覚過敏に関しては「不明」の回答であった。

図 1



<考 察>

今回の検討は聴覚特別支援学校1校でのアンケートで全員が聴力障がい者であり、内耳の影響を見るための健聴群との比較検討は出来なかったが、中川ら¹⁾が報告している知的障がい特別支援学校での

聴覚過敏を訴える音の種類とほぼ同様の音であった。本校での罹患率は中川ら¹⁾が知的障がい特別支援学校で施行したアンケート調査の小学部で約70%、中学部・高校部で約40%とする報告より少ないという結果であった。今回の検討では消失した例は1例であり、卒業後を含め検討する必要があると考えられた。

今後の検討課題としては、他の特別支援学校でのアンケートを検討したいと考えている。また、田中ら³⁾はASDと重度発達障がいを伴う人工内耳手術児で装用を拒むようになった1症例を報告しており、今後補聴デバイスを拒む例がないか引き続き同校と観察を続けたい。ただ、現在はまず各学校での症例数を把握し、学校生活に支障となる個々の聴覚過敏症例にどう対処していくかを教育機関と医療機関が検討することが必要だと考えられた。

<まとめ>

- ①聴覚特別支援学校1校にて聴覚過敏について保護者にアンケート調査をする機会を得たので報告した。
- ②聴覚過敏を訴えた症例または過去に経験した症例は6例(20%)で、中川ら¹⁾が知的障がい特別支援学校で行ったアンケート調査より少なかった。
- ③今回の学校において聴覚過敏を訴える音は「サイレン、笛の音、叫び声、エレベーターなどの警告音」などであった。
- ④進行状況に関して回答があった5例中、「寛解増悪を繰り返す」が1例、「不変」が3例、「訴えなくなった」が1例であり、卒業後を含め検討の必要があると考えられた。

<文 献>

- 1) 中川辰雄：特別支援学校における聴覚過敏の実態調査 聴覚過敏－仕組みと診断そして治療法－海文堂2012；87-89.
- 2) Andersson G et. al：Hypersensitivity to sound (hyperacusis). A prevalence study conducted via the Internet and post. International Journal of Audiology 2002；41：545-554.
- 3) 田中美郷 人工内耳装用児に見られた聴覚過敏症について 音声言語医学 2011；52(4)，360-365.

<謝 辞>

今回のアンケート調査に御協力頂きました大阪市立聴覚支援学校 中瀬浩一先生、および小児精神科領域の設問にご協力頂きました大阪府医師会精神保健対策委員会 西川瑞穂先生に感謝致します。